

SSHマレーシア海外研修を終えて

11月2日(土)より本校1年生5名がマレーシア研修に参加しました。

1日目は関西空港まで移動し、2日目に首都クアラルンプールを経由し、赤道直下のボルネオ島のサバ州の州都コタキナバルへ到着しました。

3日目(11月4日)から、現地研修の開始です。

今回も酪農学園大学の金子正美名誉教授に同行していただき、マレーシアについて大変多くのことを学んでいます。

サバ大学にてLAM教授より、ボルネオの概要や熱帯多雨林などについて学び、午後は大学付属の標本庫で膨大な数の珍しい動植物のコレクションに感嘆しました。

この日夕方、オンラインで交流してきたオールセイントツ中等学校の生徒と対面し、3泊4日のホームステイが始まりました。



4日目(11月5日)の午前は、オールセインツの生徒全員で、盛大な歓迎式を開いて頂きました。

この中で、オンラインで事前に研修し合った「日本とマレーシアにおける①森林破壊の現状と対策、②プラスチックゴミ問題」を協働プレゼンテーションし、金子先生より講評を頂きました。午後は、バディーと一緒に、学校近隣の海岸でマイクロプラスチックのサンプル収集などを行いました。





5日目(11月6日)はまず、オールセイントズ中等学校の授業に参加しました。その後、マングローブ林の生態系を研修しにコタキナバル湿地センターへ。ここではJICA海外協力隊員の鴻上さんにブリーフィングをして頂きました。午後は、ボートにてマヌカン島へ移動しサンゴの生態観察をし、ここでもマイクロプラスチックのサンプル収集を行いました。





6日目(11月7日)は朝、お世話になったオールセイントスのバディーと涙のお別れをしました。距離は離れていても生涯の友人です。この日の研修先、東南アジア最高峰(4,095m)のキナバル山まで、貸し切りバスで移動です。麓のビジターセンターで植生を学び、地上40メートルの吊り橋から立体的に熱帯林を観察しました。



7日目(11月8日)は、森林再生に取り組む施設で研修です。ここでもJICAの青年海外協力隊員が活動しており、動植物の観察や植林にも参加しました。また、動物園を訪れ、ボルネオ島固有の動物についても研修しました。





8日目(11月9日)、初雪後の北海道に無事帰着しました。
生徒たちは気候、環境や動植物などについて日本との差異を体感し、問題意識・課題を抱き、より良い未来の構築に向けたの解決方法を模索する学びはもとより、現地の「人」との生涯に残る交流をすることができました。

